



Socio express

エクスプレス

巻頭言

「身近なデジタルアーカイブ」を目ざすアジア歴史資料センター／石井米雄

2

社会科教育法

伝統や文化，平和な社会の形成に「参画」できる子どもの育成／吉田正生

4

授業実践レポート

地域教材を生かした授業展開～「人口から見た日本の地域的特色」単元／千葉賢一

6

学校の周りに出かけよう～身近な地域から歴史を学ぶ／鈴木 仁

8

編集部からのお知らせとお願い

10

教育出版

「身近なデジタルアーカイブ」を 目ざすアジア歴史資料センター

石井 米雄



●いしい よねお／国立公文書館アジア歴史資料センター長

●1. 歴史認識問題とアジア歴史資料センター開設

「歴史認識」という言葉が飛び交うようになって久しい。自国の歴史を、あるいは自国と他の国々とのかかわりの歴史をどのように語るのか、どのように記述するのか、そしてどのように子どもたちに教えるのか。歴史の認識の仕方をめぐって、日本と近隣諸国との間で大きな隔たりが生じることは珍しくない。今日、この歴史認識をめぐる問題への取り組みは、日本がこれから近隣の国々と共にどのように歩んでいくかという点においてもっとも大きな課題の一つとなっている。では、私たちは何をすべきなのか。まずは、歴史的事実についての情報を共有することが必要であろう。歴史認識を論ずる前に、どのような資料が存在するかを確定し、それを多くの人々が共有した上で初めて、それを基礎として史実をどのように解釈するかの議論が行われなければならないのではないだろうか。

「国立公文書館 アジア歴史資料センター」(アジア歴)が開設された最大の意義はまさにここにある。センター設立の基礎となった平成11年11月30日の「アジア歴史資料整備事業の推進について」という閣議決定では、その目的は「我が国とアジア近隣諸国等との間の歴史に関し、国が保管する資料について国民一般及び関係諸国民の利用を容易にし、併せて、これら諸国との相互理解の促進に資すること」であるとされている。つまり世界の人々が資料を共有するこ

とが目ざされているのである。アジア歴史資料センターは、国の機関が保有する歴史的公文書を、インターネットを通じて提供するデジタルアーカイブである。この形式こそが、資料の共有という設立目的に対して非常に大きな意味を持つ。なぜならば、パソコンとインターネット接続という環境さえ整えば、誰もが世界のどこからでも、無料で自由に貴重な公文書の原本画像を検索・閲覧することが可能だからである。

●2. センターの公開資料

センターが公開している資料画像は、国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所図書館という三つの機関が所蔵する資料原本をデジタル化したものである。特に、近現代(幕末・明治初期～第二次世界大戦終結前後)の我が国とアジア近隣諸国等との関係に関わる歴史資料として重要な我が国の公文書及びその他の記録を中心としている。

国立公文書館の所蔵資料からは、明治初期の制度である太政官から内閣に至る政府中枢機関の関連資料を中心に公開している。憲法、詔書、法律、条約、勅令などを上諭(じょうゆ:天皇の裁可を示す文章)により公布する際の、御名(天皇の署名)と御璽(天皇の印)を付した文書である「御署名原本」や、近年では、法務省や財務省などの各省庁から移管された文書、第二次世界大戦後に連合国によって接収された旧陸海軍や旧内務省の文書によって構成される「返還文書」も閲覧することができるようになった。

外務省外交史料館の所蔵資料からは、外務省と在外公館との間の通信記録を中心とした「外務省記録」や、同省の局課ごとに重要な事件や懸案事項についての情報が取りまとめられた「調書」などを公開してきた。こうした資料については、欧米各国との関係に関するものも範疇に収めている。防衛省防衛研究所図書館の所蔵資料からは、旧陸軍省及び旧海軍省によって保管されていた、旧陸海軍関係の公文書群である「陸軍省大日記」「海軍省公文備考」をはじめとして、軍や戦争についての様々な記録のほぼ全体を視野に入れて公開を進めている。

このように、アジア歴史資料センターは、実質的に、近現代の我が国の公文書を広く公開するアーカイブとなっている。公開資料の数は、2010年1月現在、画像数にして約2000万であり、これからもその数は増えてゆくことになる。

● 3. 公文書を身近に

冒頭に述べた、歴史認識をめぐる問題に対するアジア歴史資料センターの位置付けを考えれば、高校生や大学生を中心とした若年層に資料に親しんでもらうことは一つの鍵であるように思う。しかし、膨大な公開資料の中から目ざすものを探し出すことは決して容易ではなく、そこを補う工夫が必要となる。そこでセンターでは、インターネット特別展として、歴史的なテーマを選び、それに関連する資料を整理して紹介するという企画を行っている。これまでに、「日露戦争特別展 ～公文書に見る日露戦争～」（2004年）、「公文書に見る岩倉使節団 ～智識ヲ世界ニ求メ～」（2005年）、「公文書に見る日米交渉 ～開戦への経緯～」（2006年）、「『写真週報』に見る昭和の世相」（2007年）、「条約書と御署名原本に見る近代日本史」（2008年）を公開してきた。特別展と名付けてはいるが、常設しているものでいつも



アジア歴史資料センターのホームページ

<http://www.jacar.go.jp/>

楽しんでもらえるようになっている。

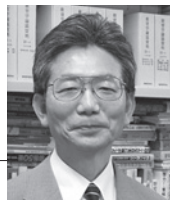
また、2009年には、これらとは少々手法を変えた二つの新しいコンテンツを用意した。一つめは、「紀香の『アジ歴』スペシャルコーナー」。女優の藤原紀香さんにナビゲーターになってもらい、様々な歴史上のトピックについての資料を紹介していくコーナーだ。センターの企画では初めて動画も用意して、視覚的な楽しさも追求してみた。二つめは、「アジ歴コンサイス」。これまでにユーザーが実際に検索した言葉をもとに歴史上の事件や人物を選び出し、それぞれに関連する主な資料を、簡単な解説と共にリストにして紹介するという、いわばアジア歴史資料センターの簡易版である。教科書やテレビで知った歴史文書をすぐに見てみたい、というユーザーの要望に応えることを目指して企画した。これからどんどん成長させていく予定である。

このように、センターは今、特に若いユーザーに公文書を少しでも身近なものとして感じてもらえるように、様々な取り組みを行っている。少しでも多くの人が、歴史と向き合うきっかけとしてセンターを役立ててくれれば幸いである。

付記：石井米雄先生は2010年2月12日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（編集部）

伝統や文化、平和な社会の形成に「参画」できる子どもの育成 ～小中連携と学習指導要領を意識して歴史単元の導入をもっと大切に

吉田 正生



●よしだ まさお／文教大学教育学部教授

●1. 小中連携というけれど

ある研修会での出来事である。

「私は、小学校さんがどんなことを教えているか知らないんですけど……」

こんな前置きで中学校の先生が発言を始めた。

この研修会、小学校と中学校の先生方が同じ講義を受け、同じ授業を2本見る。一つが小学校、もう一つが中学校の授業である。その後、授業について話し合う。その話し合いでの発言である。教員養成大学の教員としてショックだったし、考え込んでしまった。

しかし、これは特殊な事例なのだろうか。5年生の産業学習、6年生の歴史・政治学習なら子どもたちがどのようなことを学んで来たか、およその見当はついて、小学校中学年になるとほとんど知らないというのが、多くの中学校の先生方の実態なのではないか？

●2. 小学校中学年における大きな変化

この30年程の中学年社会科教科書における大きな変化は、歴史的学习に顕著である。手元にある17年版教科書で言えば、いわゆる「戦争学習」の部分がまったく姿を消してしまったもの、残っているが小さな写真と短いキャプションだけが割り当てられているものが大部分である。1社だけが1ページを割いているが、これとても昭和50年代頃までの教科書に比べたら、見る影もない。

これはある意味、仕方のないことでもある。

平成の初めころまで、小学生の祖父母というのは、青年時代ないしは壮年時代に戦争を体験した人々であった。したがって、その人々に「市の人々のくらしのうつりかわり」という歴史単元で聞き取りを行わせ、その話をもとに戦争を取り扱うことが可能だったのである。だが、もう過去のことになってしまった。

では今の中学年教科書の歴史的単元では何が教材としてとりあげられているのか。またいよいよ増えていきそうなのか。生活道具や学校の移り変わり、あるいは地域の「開発」といった教材と並んで、いやそれ以上に、地域に伝わる〇〇囃子とか〇〇祭りといったものが目につくようになった。これからは、地域の伝統文化や行事が教材としてとりあげられる可能性が大きい。

ある教科書では、教育基本法が変わる前から「〇〇祭り」が大きくとりあげられていた。それも、こういうお祭りをみんなで守っていかねばならないという立場に立って。これは伝統や文化は不変のものであるという文化本質主義に拠っていると思われる。

●3. 中学校で取り組んで欲しいこと

こうした小学校社会科の実態をふまえたとき、中学校の歴史学習でぜひ取り組んで欲しいのは地域教材の開発である。どの教科書にも歴史単元の冒頭に「身近なものから歴史を」といった章や節がある。それは、平成10年版

学習指導要領の内容(1)イを受けて設定された箇所であるⁱ。

中学校の社会科指導で、これに力点が置かれているだろうか。入試に出ないことが口実とされ、疎かになってはいないだろうか。

では、どんなものをどう教材化して、子どもたちの歴史学習への意欲や問題意識を高めたらよいのだろうか。地域ごとに適切な教材がいろいろあるだろうが、ここでは先の話とつなげて、またどの地域でも可能と思われるものを二つだけ紹介する。

一つは忠魂碑である。忠魂碑は、これまで小学校中学年の歴史学習の教材として開発されてきたし、実践の積み重ねもある。また、昭和50年代には、小学校六年生の歴史単元への導入としてとりあげた教科書もあるⁱⁱ。忠魂碑の裏側には、地域から日清戦争や日露戦争、そして第一次大戦、第二次大戦などに出征し、戦死した人々の没年、氏名、職階などが刻まれている。人口移動のあまりない地域だと、子どもたちの祖父母の血縁者の名前が見つかったものである。それをもとに遺族などへの聞き取りが行われた。また、日清戦争に比べて日露戦争における戦死者数の多いこと、第二次世界大戦のそれはさらに大きなものであることを把握させ、「平和学習」へと発展させたのである。

導入単元としてこれを行い、「敗れたとはいえ英米を相手にこういう大きな戦争を戦えるようになるまでに日本列島に住む人たちは何を行ってきたのか。大きな惨禍の後、人々はどのようにして新しい国づくりに取り組んだのか」という歴史学習全体を貫く課題を立てさせた

い。歴史学習を暗記学習や歴史学の基礎学習に終わらせず、誇りと反省をもって自国史を見られる国民を育成するためである。

今一つの教材は、お祭りなど地域の伝統行事である。前述したように、小学校では文化本質主義の立場に拠り、「今あるものをそのまま保持していくのが伝統を大切にすることだ」と指導する可能性がある。そこで中学校では、ぜひとも「地域の伝統行事も、ある時期に、何らかの意義をこめて人々が作り出したものである」という社会構成主義的な見方に立って教えて欲しい。地域の行事や文化を省察し、継承と創造に参画できる子どもを育てたいからである。

具体的には「このお祭りはいつ、どんな理由で作られたものなのか」を調べさせ、「今後もそのままのかたちで継承することが適切なかどうか」を話し合わせたい。そして「では、もっと大きな目でこの結論を出すために、日本の歴史を学ぼう」として、やはり歴史単元全体を貫く課題を成立させたい。

いずれの課題も社会づくり・国づくりに参画できる力を育成しようとするものである。

i そこには「身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、(受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、)歴史の学び方を身につけさせる。」と書かれている(但し、括弧内は20年版学習指導要領で付加された部分である)。

ii 但し、執筆者たちの原案は検定過程で変えられた。そのため平和学習・人権学習のために忠魂碑をとりあげたという意図が汲み取れぬものとなり、「反動的」のレッテルを貼られ、採択数を大幅に落としたという(山田勉 1980『歴史・政治教材と教科書検定』国土社)。

地域教材を生かした授業展開 ～「人口から見た日本の地域的特色」 単元

千葉 賢一



●ちば けんいち／岩手県住田町立有住中学校教諭

●1. はじめに

新学習指導要領には、言語活動の充実や問題解決的な学習の重視、社会参画や持続可能な社会の視点など、多くのキーワードが登場する。新学習指導要領の目ざすところを意識しながら、地域教材を取り入れて授業実践した事例を紹介する。本校と同じ環境にある学校に少しでも参考になれば幸いである。

●2. 授業構想

(1) 時数配分とねらい

現行学習指導要領(3)「人口から見た日本の地域的特色」について、地域の実態をもとに「過疎問題とその取り組み」の授業を行った。「過疎＝暗い・大変」のイメージに終わらせず、地域の魅力を再認識させる目的で2時間扱いとした。1時間目は地域資料から過疎の現状や問題点を考えさせ、2時間目は過疎に取り組む具体的事例を通して地域の人々の願いに気づかせるとともに、地域に感謝と誇りをもたせることをねらいとした。

(2) 授業展開で意識したポイント

- ・中学校における地域教材の活用のある方
- ・問題解決学習の構成と効果的な授業展開のある方
- ・社会科授業における「言語活動」のある方

●3. 授業の概要

(1) 課題の把握(導入)

住田町が推進する「出会い支援事業」「移住促進のホームページ」「新町民増加計画」の資

料を見せて、「なぜ住田町では人口を増やそうとしているのか」を学習課題として設定した。ここでのねらいは次の2点である。

- 授業を貫く課題意識をもたせる。
 - ・身近な地域教材を提示することで生徒の興味・関心を高める。
 - ・前時の学習内容「過密地域」と対比して疑問を抱かせる。
- 複数の資料から必要な情報を取り出し、解釈する力を育てる。

(2) 課題の追究(展開)

住田町の「人口」を切り口として、実際の日常生活と資料を結びつけながら事実を検証することとした。展開は、生徒が個別に思考する→生徒どうして意見交換する→発表・交流するという流れである。小学校時代に学校統合を経験した生徒からは、下記の予想発言があった。

人口が少ないから。農林業の後継者不足だから。産業が発展しないから。少子高齢化だから。住田のPRのため。

(以下の丸数字は主な発問・説明)

- ①人口減少によって困ることは何か。

伝統芸能が廃れる。労働力が他市町村へ流れる。農林業の後継者不足。商店の減少。学校の統廃合。市町村合併。税収減少。

- ②「人口減少」と「税収減少」の関係を示すグラフから分かることは何か。

- ・人口減少と税収には関係があり、税収の減

少によって町のサービスが低下し、生活が不便になることを事例を通して理解した。

③人口減少と経済活動の衰退により、維持が困難な地域を「過疎地域」という。

- ・過疎化の定義を確認した。

④日本のどこが過疎地域になっているか。

- ・教科書の掲載資料を使用し、日本全体的に過疎地域がたくさんあること、山間部に多いことなどを読み取った。

(3)まとめ・発展(終末)

終末で、今日の授業で分かったことと、それに対する自分の考えを記述させ発表させた。

- ・学習のねらいに沿って、学習内容をきちんと理解しているか。

- ・社会的事象を自分の問題としてとらえているか。

- ・他者の考えから、思考を深め広げる。

●4. 考察

(1)地域教材の活用について

地域の事例を学習することで、生徒の興味・関心が高まり、他の事例についても応用して考えられるようになった。「婚活列車」やバス路線廃止を報じる新聞記事など、授業後も将来の人口減少に関連するニュースは多かった。

また、過疎地域について学習するまで、自分たちの地域が過疎とは知らずにいた生徒が学級の3分の2以上もいた。「なぜ町で医療費無料化を実施するようになったのか」「なぜ県立病院のベッドがなくなるのか」など、授業を通して理解できた生徒も多い。

(2)問題解決学習の構成と効果的な授業展開のあり方

新聞記事や具体的な資料を用意したこと、

生徒に体験談を語らせたことで課題をより身近にとらえることができた。このことから、課題の設定が大きな鍵となると実感した。今後も生徒にとって必然性のあるもの、興味・関心の高まるものを教材として開拓し、複数の資料を比べて読み取る学習方法も継続していきたい。

(3)社会科における「言語活動」のあり方

a. 学習のまとめ・発展(終末)部分から

- ・理解したことを自分の言葉(文章)で表現することは、使用する用語の意味も理解していることが前提となるので、生徒の理解度を把握したり、理解の定着を図ったりするには有効な手段である。

- ・自分の考えを書かせることで、既習事項や生活との関わりなど、生徒の関心・意欲・態度を見取ることができる。また、発表させることで、考えの根拠や関連する事項など思考を深めたり広げたりすることができる。

b. 授業の展開から

- ・課題設定での疑問やそれに対する予想、検証での気づき、終末での発表など、すべてが言語活動である。生徒が発言したくなるような資料提示や発問、生徒の考えやつぶやきを生かす教師の活動が大切である。

●5. おわりに

公民的分野における「地方自治」単元とも関係する学習内容ではあるが、地理的分野でも学習しておくことで地域を見つめる力が養われたと考える。社会科のみならず、生徒会活動や「総合的な学習の時間」、道徳の授業でも活用でき、願わくは地域社会において行動できる生徒が育ってほしい。

学校の周りに出かけよう

～身近な地域から歴史を学ぶ

鈴木 仁



●すずき ひとし／山梨県甲府市立東中学校教諭

●1. はじめに

新学習指導要領では、歴史的分野の内容、(1)「歴史のとらえ方」として、次のように示されている。「イ 身近な地域を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域への具体的な事柄とのかかわりのなかで我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。」この中項目のねらいは、生徒の居住地域や学校を中心とした、生徒による「調べる活動」が可能で、身近に感じることができる範囲の歴史を取り上げることによって、わが国の歴史により具体性と親近感をもたせながら、その理解を深めることにある。

実際の学習においては、歴史の学び方を身に付けさせることもねらいとして、地域の人々の生活に根ざした伝統や文化の取り扱いを工夫し、また、そこに暮らす人々の協力も得ながら、生徒による「調べる活動」を行っていききたい。しかし、「調べる活動」を取り入れた授業は、調査すること、その内容を発表することのみで終わってしまい、地域への関心を高めることや、わが国の歴史を理解することにつながりにくい。そこで、本当の意味で歴史を身近に感じることができる学習活動を計画したいと考えた。

●2. 学習計画を立てるにあたって

1年生の歴史学習は江戸時代までの学習を

行う。その時代の様子を、様々な人物や出来事を通して学んできたが、地理に比べると、言葉としての知識のみに留まりやすい。そこで1年生の学習のまとめとして、地域の文化財や史跡を通して、各時代の様子を理解し、歴史の流れをつかむ学習活動の取り組みができないかと考えた。幸い本校は、様々な文化財や史跡に囲まれる文教地区にあり、そこには徒歩で行くことができる。しかし、目的意識もなく見ているのでは、その文化財や史跡が伝えるメッセージを受け取りにくい。また、興味が持てない場合は、生徒自身がその場所を訪れないこともあるだろう。課題設定と事前学習を念入りに行い現地調査に取り組むことで、生徒が歴史を身近に感じ興味・関心を高め、2年生での歴史学習に向けた意欲を高めることになると考えた。

●3. 学習の流れ

近くの高校で作成された『文化財・史跡MAP』を全生徒分入手できたので、こういった資料を有効に使おうと考えた。このマップを見るといかに文化財や史跡が本校の周りに多いかに気づく。そのなかで、今まで学習してきた江戸時代までの内容に関わるものを選び生徒に提示する。グループごとに調査するものを選び、事前学習を行う。

武田神社、甲斐善光寺、酒折宮といった文化財を調べるのであるが、インターネットや

事 項	学習活動	指導上の留意点	時数
課題を把握する	学校の周辺にある多くの文化財や史跡の概要を理解し、自分たちのグループがどこを調べるかを決める。	近隣の高校で作成された『文化財・史跡MAP』をもとに、周辺に多くの文化財や史跡があることに気づかせる。	1
事前学習を行う	地域の人々から話を聞くと同時にインターネットや書物で調べ、実際に行ったときに何を調査するのか、訪問の目的を決める。	- 調べる文化財や史跡が、どのような時代背景のもとにつくられたのかを考えさせる。 - 現在も行われている行事について調べさせる。 - 目的地までのルートを確認させながら、なぜその場所につくられたのかを考えさせる。	2
調査に出かける	目的の内容を調査すると同時に、実際に行って気がついたことを書き留めておく。	行く途中の様子も含め、気がついたことや現地の人に聞いた話の内容等も書き留めさせる。	2
まとめを行う	- 文化財や史跡にどんな意味があるのか、調査した内容をまとめる。 - 各グループの発表を聞き、その内容を理解するとともに、発表内容を時代別に分類し、また本校の『文化財・史跡MAP』を作成する。 - 歴史の流れや、地域の特徴について考える。	- まとめが、文化財や史跡の内容のみになるのではなく、なぜつくられたのか、時代背景や地理的な背景まで考えさせる。 - 発表内容を年表に時代別に分け、時代の変化の様子を理解させる。 - 地図上に記入することにより、地理的な特徴も考えさせる。 - 歴史に親近感をもたせ、学習の意欲を高めるよう心がける。	3

図：指導計画の概要

書物で調べることはもちろん、できるだけ地域の人々の生の声を聞かせるよう心がける。また、現在行われている行事等の内容も調べさせ、実際の体験を振り返らせるようにする。さらに、調査の目的地までのルートマップを作らせ、調査対象と他の文化財や史跡との関係、地理的な背景についても考えさせる。そういった事前学習のなかで、実際に行き調べる目的を明確にさせる。実際の調査では、午後2時間続きの授業計画を立て、学年一斉に行う。グループごとに時差をつけて出発させ、現地の実物を見て案内を読み、そこで聞いた話の内容と感じたことを、準備した調査用紙に書き留めさせる。

調査後、時代背景や地理的な背景も考えさせながら、全体の内容をまとめ、発表会を行う。互いの発表内容から学び合うことはもちろん、内容を年表に記入することにより、それぞれのつながりから時代の変化を理解させる。また、本校の『文化財・史跡MAP』を作成させることにより、文化財どうしの位置関係などの地理的な特徴も考えさせる。作成

した年表、地図をもとに学習する時間を1時間とり、写真等の資料も使いながら内容を深める。その後、年表や地図は掲示物として利用する。

●4. おわりに

地域について学ぶ学習活動は小学校でも行っており、そういった経験も生かしつつ学習をどう発展させていくかを考える必要がある。地理における「身近な地域の調査」単位と関連させれば、学習が厚みを持ち、生徒の生活に根ざしたものになると思われる。今年度は学園祭においても、甲斐善光寺に関わる民話をアレンジした創作劇を発表しており、こういった活動も学習を深めていくきっかけにつながるだろう。また、地域の歴史と通史を関連させる学習活動を繰り返し行うことにより、生徒は地域への関心を高め、わが国の歴史への理解が深まると考える。博物館の利用、地域の人の話を聞く機会等を増やすなかで学び方を身に付けさせながら、さらに学習を進めていきたい。

編集部からのお知らせとお願い

－平成 22 年度用教科書『中学社会』について

平成 22 年度用の教科書は、平成 21 年度用の教科書と下記の箇所が変更されています。
ご指導の際には、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

◆社会情勢の変化や統計数値の更新などによる変更箇所

【地理的分野】

ページ	行	平成 21 年度用	平成 22 年度用
2	左凡例	2008 年 6 月現在	2009 年 6 月現在
23	9 ～ 10	66 億人です (2007 年)	67 億人です (2008 年)
23	下囲み	66 億人	67 億人
23	囲み	2007 年「世界人口白書」	2008 年「世界人口白書」
136	中ふき出し	66 億人	67 億人
138	タイトル	66 億人	67 億人
138	上囲み	66 億人 (2007 年)	67 億人 (2008 年)
210	ホームページリンク	(2008 年 6 月現在)	[(2009 年 6 月現在)のものに更新]

※統計資料を更新した箇所(ページと種別のみを記載)

23「世界のおもな国の人口」／ 206 ～ 207 表／ 208 ～ 209 表

【歴史的分野】

ページ	行	平成 21 年度用	平成 22 年度用
2	下凡例	2008 年 6 月現在	2009 年 6 月現在
205～207	表	(2008 年 7 月現在)	[(2009 年 6 月現在)の資料に更新]

【公民的分野】

ページ	行	平成 21 年度用	平成 22 年度用
3	下凡例	2008 年 7 月現在	2009 年 6 月現在
40	2	約 40 年前	約 45 年前
49	上写真	〔ドナーカード〕	〔最新のものに差し替え〕
77	下写真	〔地域通貨「クリン」〕	〔最新のものに差し替え〕
188～189	表	(2008 年 7 月現在)	[(2009 年 6 月現在)のものに更新]

◆訂正箇所

【地理的分野】

ページ	行	平成 21 年度用	平成 22 年度用
25	地図	シリア アラビア語で「北の国」の意味	シリア 古代の国名、アッシリア(「日の出」の意味など)から [全体に「※いずれも有力な説の一つです。」と注記]
31	9	関係位置	相対位置

【公民的分野】

ページ	行	平成 21 年度用	平成 22 年度用
18	上囲み	NGO の「国境なき医師団」です。	国際的な民間団体の「国境なき医師団」です。
44	上囲み	現在では、女性の知事も誕生しています。	現在では、女性の知事も活躍しています。
49	下写真 キャプション	住基ネットへの参加について慎重な地方公共団体が少なくありません。	住基ネットの利用について慎重な地方公共団体もあります。

※また、公民的分野の教科書 56 ～ 60 ページに掲載しております写真やグラフの一部に関しましては、印刷後の社会情勢の変化に伴い、最新の状況とは異なる箇所がございます。誠に恐縮に存じますが、ご指導の際にはご配慮くださいますようお願い申し上げます。



教育現場とリンク



教育出版

エデュコネット

EducoNet の会員を募集しています！

入会金・会費は無料です！



会員の皆様に、インターネットを通じて
教育情報をご提供します。

EducoNet
とは…

教育関係者専用のWEBサイトです。

役立つ資料・情報の宝庫です。

- 教育情報……教育界の動向等の情報提供
- 教科のページ……年間指導計画・評価基準・高校シラバス・教科別お役立ちコーナー・編集部からのお知らせなど
- メールマガジン……教育関連情報をタイムリーに発信

会員は…

- ◆会員専用のコンテンツにアクセスできます。
- ◆メールマガジンが定期的に配信されます。

申し込みを受け付け後、
ID・パスワードを勤務先に
郵送します。



教育出版EducoNet会員登録について

★WEBにて受け付けています！！

教育出版ホームページまたは
<http://educonet.jp/entry.html>に
アクセスしてください。

※個人会員のほかに、教育委員会・学校単位での申し込みも受け付けます。

教育出版ホームページの主な内容
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

EducoNet (会員制)

- ・年間指導計画
- ・評価基準
- ・教科別お役立ちコーナー
- ・教科通信
- ・ニュースレター
- ・各種教育情報
- ・編集部から
- ・メールマガジン

- 情報提供
…・教育情報 ・総合的な学習 ・研究会日程
- 各種リンク集
- ご案内
…・教科書内容 ・教師用指導書 ・教材品
- 教科書関連資料・写真館
- 新刊書紹介
- もの知りテーマパーク
- 地球時代の教育情報誌 Educo



教育出版

▶▶ EducoNet事務局 E-mail : educonet@kyoiku-shuppan.co.jp

【表紙写真】顕著なカルスト地形を眺める漓江の川下りにより、多くの観光客を集める桂林市陽朔の風景。川の上には、竹の湾曲部を舳先として編まれた筏に四阿を乗せた観光船が漂う(上写真)。少数民族による民芸品店が連なる陽朔の街の様子。外国人などを当て込んだ観光開発が盛んになっている(下写真)。(2009年 中国・コワンシーチョワン族自治区)

中学社会通信 Socio express (2010年 春号)

2010年3月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集局
印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6862(お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp> E-mail edit-info@kyoiku-shuppan.co.jp



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社

〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509

函館営業所

〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198

東北支社

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395

中部支社

〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウ・テックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825

関西支社

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401

中国支社

〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおい損保広島ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040

四国支社

〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134

九州支社

〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-49 福岡富士ビル 8F
TEL: 092-781-2861 FAX: 092-781-2863

沖縄営業所

〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411